

科目名	インバウンド観光	科目分類	■専門科目群 (第1グループ) □総合科目群 (第2グループ)
			国際観光学科 □必修 ■選択
			学科 □必修 □選択
英文表記	Inbound Tourism	開講年次	□1年 ■2年 □3年 □4年
ふりがな	よこた けいざぶろう	開講期間	□前期 ■後期 □通年 □集中
担当者名	横田 恵三郎	修得単位	2単位
授業のテーマ	わが国「観光立国」戦略の要であるインバウンド観光の歴史、現状と課題、将来に向けた展望を学び、インバウンド全体について過去、現在、未来のポイントを第三者に説明することが出来るようになる。		
到達目標	宿泊、交通、旅行関連企業のみならず飲食ビジネス、ショッピングビジネスなどに進路を定める場合、仕事に役立つインバウンドの基本的な知識を習得できる。		
授業概要	インバウンド観光の果てしてきた役割、意義、背景など歴史的経緯を学びながら、2020年・4000万人、2030年・6000万人の外客数目標とその達成の重要性を、統計データや直近の世の中の動きを資料やニュース映像から読み解きながら、理解を深めていく工夫をおこなう。		
授業計画			
第1回	ガイダンス インバウンドとは、インバウンドの現状①(旅行者数)		
第2回	インバウンドの現状②(国・地域別)		
第3回	インバウンドの歴史と業務①(歴史)		
第4回	インバウンドの歴史と業務②(政策の変遷、関連法規、日本政府観光局、地域組織、関連諸団体)		
第5回	インバウンドの動向(目的地の動向、客層動向、旅行動向、機体と活動)		
第6回	インバウンドと関連する事項(為替、ビザ、MICE、輸送手段、案内表記)		
第7回	インバウンドと消費(消費動向、買物動向、飲食動向、決済方法)		
第8回	インバウンドと免税制度		
第9回	インバウンドとビジネス①(ツーリズムビジネス)		
第10回	インバウンドとビジネス②(インバウンドに関連するその他ビジネス)		
第11回	インバウンド旅行者の理解(上位4カ国:中国、韓国、台湾、香港)		
第12回	インバウンド旅行者への対応(満足な点、不満な点、多言語対応、通信環境)		
第13回	インバウンドとニューツーリズム		
第14回	ツーリズム関連企業実務担当者による講演		
第15回	まとめ		
第16回	定期試験		
授業時間外の学習	予め統計データを中心とした資料集を配付し、また各回にプリントを配付するのでデータを自分なりに読み解きながら復習、予習を行なうこと(1.5時間程度)。		
履修条件 受講のルール	将来、旅行会社、ホテル、航空、鉄道、飲食ビジネスなど観光関連企業に進みたいと考えている人はこの科目の履修が望ましい。		
テキスト	第一回目の授業で統計データ資料集を、また各回プリントを配付する。		
参考文献・資料	上記の資料以外は授業中に紹介する。		
成績評価の方法	定期試験・小テスト50%、取組姿勢・授業態度50%として総合的に評価する。		
オフィスアワー	水曜日:9:00-11:30、木曜日:9:00-11:30		
成績評価基準	2016年度以降入学の学生:秀(100~90点)、優(89~80点)、良(79~70点)、可(69~60点)、不可(59点以下) 2015年度以前に入学の学生:優(100~80点)、良(79~70点)、可(69~60点)、不可(59点以下) ※出席回数が規定に満たない場合及び授業料その他納入金等の全額を納めていない場合は、期末試験を受けることができません。		
学生へのメッセージ	人口減少の避けられない日本、秋田県は残念ながらワースト1で減少が進んでいます。その救世主にならないとしているのがインバウンド観光です。将来観光関連産業に就きたいと思っている人は、ここで得る知識は将来必ず役に立ちます!		